



第 16 回まちづくり推進会議

日 時：令和 7 年 2 月 25 日（火）19:00～20:30
場 所：公民館多目的ホール
出席者：委員 18 名 事務局 4 名

会議の主な内容

1. 会長挨拶 2. 説明・協議事項

（1）全体会議

- ・事務局から前回会議までの意見をまとめた意見書提出の経過と内容、住宅施設課による施策の検討結果を資料 1 により説明。
- ・概ね意見書に対する検討結果は、委員からの意見による内容となっているが、2 番目の空き家バンクに係る不良度ランクの設定については、対応が難しいという回答であった。空き家流通促進事業については、令和 7 年度予算に計上して 3 月の議会で図るように進めている。
- ・さかさまバンクについては、家が欲しいという方を登録することで空き家バンクの登録者と結び付けていく内容で、令和 7 年 4 月からスタートするように準備をしている。
- ・お試し住宅については、2 通りの制度となっている。1 つは定住促進住宅の 1 戸を移住定住目的として一定程度の長期滞在者が住むことができる住宅を整備する。住宅内は最低限の家具や調理器具、電話回線などを整備する予定。
- ・もう 1 つは、短期滞在として宿はくんねっぷ旅館を想定しているが、3 日から 7 日以内の短期滞在に対して宿代を助成する内容となっている。

（2）グループワーク

- ・2 グループに分かれて、「住宅施策に係る意見書の提出及び検討結果について」と「これまでのまちづくり推進会議を振り返って」の 2 つのテーマでワーキンググループを実施。その後、各グループから出た意見を事務局から発表した。

＜ワーキンググループで出された主な意見は以下の通り＞

◆Aグループ（大里課長が進行担当）

【これまでのまちづくり推進会議を振り返って】

○会議回数や会議時間は適切か

- ・会議回数は年 3 回、19 時開始で 90 分で終了が妥当。
- ・会議回数は議論を深めるために、2 か月に 1 回程度の開催を希望する意見も。
- ・女性委員からは、19 時開始だと出席しやすいとの意見が多かった。
- ・参加できる時に参加で良いと思う。

○会議の議題は適切だったか

- ・当初からの議題であった「まちづくり」について議論を深めるためにも、それぞれがまちづくりにどんなことをやりたいかなどを話し合うことで、必ずしも任期がある 2 年で意見をまとめなくても良かったのでは。そのため、本年度はしばらく不安に感じた。役場主導でテーマを決め、論点をしぼることも重要だが。

○委員構成は適切か（人数、役職、男女、年齢など）

- ・各団体の代表者や充て職の方中心で構成されているが、各団体で検討して若い世代の選出など、委員構成の見直しを提案する。例として、地域おこし協力隊を委員に選出してはどうか。

- ・民生委員の会議にて会議の内容を報告しているが、関心の高い人もいたので、彼らを委員に選出してはどうか。

○会議で意見を述べやすい雰囲気だったと感じたか

- ・最初は発言しづらかったが、回数を重ねるうちに慣れてきた。

○今後のまちづくり推進会議のあり方に関する意見

- ・会議の内容は、まちづくりへの反映という結果も求められることが予測されるため、議論は町中心で進行する必要性が考えられる。
- ・結果を出すことの必要性は考えられるが、まずは色々な意見を自由に出してもらい、課題を検討することが必要である。
- ・議論をスムーズに進行させるためには、ある程度は事務局主体で進行することもある必要である。
- ・自分が出席した他の会議では町議の傍聴があったので、この会議でも町議の傍聴があると良い。

○まちづくり推進会議に出席した感想など

- ・最初の頃はテーマが漠然としていて話し合いがまとまらなかったが、テーマを決めなかったことで、色々な意見が出されたことは良かった。
- ・最初は漠然とした内容でこの会議の先が見えなかったが、講演の後、色々な意見や感想が聞かれて良かった。
- ・最初はこの会議でどこまで話し合うのか漠然としていたが、議題を住宅問題に絞ってからは課題が明確になって良かった。

○その他

- ・地域おこし協力隊を委員に加えることが可能ならば、加えた方が良いと思う。

◆Bグループ（桜井係長が進行担当）

【住宅施策に係る意見書の提出及び検討結果について】

- ・お試し住宅の取り組みにより町外の方が訓子府町に魅力を感じて移住者が増えることを期待している。

【これまでのまちづくり推進会議を振り返って】

○会議回数や会議時間は適切か

- ・会議回数、会議時間は適正だと思うが、ワーキンググループの時間を長く設定して欲しい。

○委員構成は適切か（人数、役職、男女、年齢等など）

- ・各団体の会長職などの充て職が多く、もっと適正な人がいるのではないかと感じており、適正な人材の掘り起こしをするべき。
- ・次期委員はこれからのまちづくりを担っていく若い人を多めにするべき。
- ・公募委員を多くしてもよいと考える。組織に属していない人でもまちづくりに関心のある人は多いと思う。また、社会教育と連携し、よつば会や野菜クラブなどの団体にも声をかけてみてはどうか。

○議案や資料はわかりやすいか

- ・資料や事務局の説明も分からないことは無かったので分かりやすかった。

○会議で意見を述べやすい雰囲気だったと感じたか

- ・ワーキンググループでは意見も言いやすい雰囲気であった。

○今後のまちづくり推進会議のあり方に関する意見

- ・今年度は住宅施策にテーマを絞った内容であったが、テーマを絞らず、どうしたら住みやすい町になるかなどの理想や夢を話すことが大事だと思っており、その理想に近づけるために、現状、こういった施策ができるかなどの協議をしたい。

- ・1年目は色々意見を出し合ってきたが、2年目は住宅施策についてのテーマに絞られ、今までのことはどうなったのか疑問であった。意見書（成果）を出すことが目的になっているのではと感じた。
- ・元々の会議設置の目的は、役場の仕事について、委員で協議し、意見する場であったと記憶している。段々主旨も変わっていき、一度原点に立ち戻り、協議内容を見直すべきではないか。
- ・会議の最初は「人口を増やすこと」をテーマに協議を進めてきた中で、今年度は住宅施策にテーマを絞って協議してきた。人口を増やすという目標は任期2年間では達成できないと考えていることから、今回のようにテーマを絞って協議していき、段階を経て目標達成に向かっていくべき。2年任期の中で成果が出ない場合もあると思うが、次期委員に引き継ぎ、協議を続けていくべき。また、成果を出すことが、委員のモチベーションに繋がり、会議の意味を成していくと考える。

○まちづくり推進会議に出席した感想など

- ・推進委員になった最初の会議で、何の引き継ぎもなく講演会から始まって困惑した。最初に会議の概要や今までの成果、協議内容などの説明が欲しかった。

(3) 全体会議

- ・会議の開催時期や開始時間19時から成熟してきたと思っている。
- ・年に3回程度がいいという方もいれば、2ヶ月に一度話し合いをしていくべきだという意見もあったので、今後模索しなくてはならない。
- ・構成員のあり方は、次期委員として新たなメンバーになるため、必ずしもその組織の代表ではなく、その組織の中の若手や女性でも構わないと思う。
- ・条例では委員が24人以内となっているため、少なくともよい。何人が適切なのか、今まで人選に苦労しながら皆さんにお願いしていると思うため、男女や世代に配慮しながら、お願いしたいと思っている。
- ・以前の会議でも意見の出た高校生の参加については、夜に参加することは難しいため、番外編として日中に高校生を交えた幅広い世代での意見交換をするのも良いのでは。
- ・まちづくり推進会議での進め方について、2年間で一つのをまとめ上げるということが大事だという方もいれば、とりあえず成果には繋がらなくても、何かフリートークで話し合っ、結果に結びつかなくてもいいのではという意見もあった。
- ・本年度から住宅施策の方に舵を切ったが、今度新しい任期で始まる時は1回目で、委員の皆さんが何をやりたいかとか、どういったことをやっていきたいということを聞いていかなければならない。
- ・地域おこし協力隊の活動が見えないという指摘もあり、このような場に出てもらって協力隊本人が訓子府で何をやりたいなど話してもらっても構わないと思う。
- ・まちづくり推進会議では、いろいろなご意見をいただきました。今度新たに2年間という形で4月からスタートしますが、ご意見をもとに見直していきたいと思う。また引き続き委員を続けたいということに拒むことはないのです、よろしくお願ひしたいと思ひます。

まちづくり推進会議の資料は、役場庁舎(正面玄関横)および図書館に設置しています
「まちづくり情報コーナー」で閲覧できます。

